06. 壁が開くこと

朝起きて、今日はどの壁を開けようか考える。天気がいいから中庭につながる壁を開ける。友達が来る日は隣の部屋とつなげる。静かに過ごしたい日は全部閉じる。

壁を開けるだけで、部屋だけじゃなく帰り道まで変わる。「あれ、今日はここ通れない。」そんな日は少し遠回り。でも、その道でいつもは会わない人に会う。

「おじゃまします」その一言から今日の会話が始まる。毎日同じ家に住んでいるのに、毎日少し違う暮らしになる。

1階平面図兼配置図　1:200

少しだけ風を入れたい日は30度、隣の人と話しやすいように45度、中庭までつなげたい日は大きく開く。

壁は可動域のどの角度でも止めることができ、その場所で静かに固定される。だから、この建築に同じ日はない。

少し開くだけで光の入り方が変わる。少し角度を変えるだけで、人の流れが変わる。

07. きょうは近道、あしたは遠回り

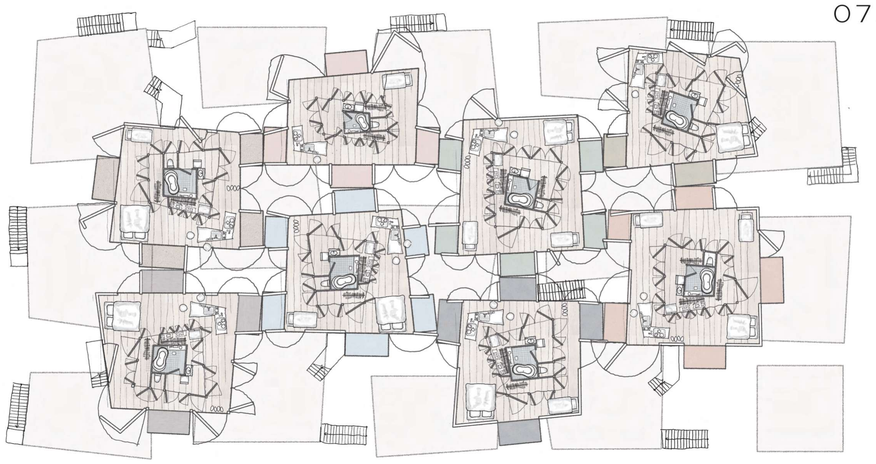
普段は通らない道を歩くと、違う景色が見える。中庭では子どもたちが遊び、ベンチでは誰かがお茶を飲んでいる。開いた壁の向こうから「こんばんは」と声が聞こえる。

「ちょっと、おじゃします」そう言って横を通る。少し立ち話をして、また家へ向かう。

毎日同じ家に帰るのに、毎日同じ帰り道ではない。

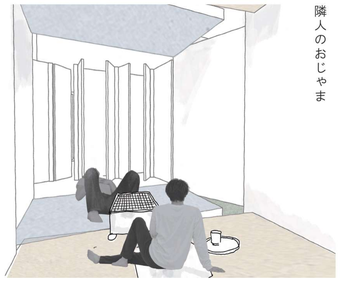
今日は近道、明日は遠回り。

その小さな違いが、昨日は出会わなかった人との挨拶を生み、何気ない会話を生み、新しい景色を見せてくれる。この建築では、「じゃま」はただ通行を妨げるものではない。少しだけ立ち止まり、少しだけ寄り道をし、少しだけ誰かの暮らしに「おじゃま」する。その積み重ねが、帰ることを日々の楽しみに変えていく。



2階平面図　1:200

隣人のおじゃま

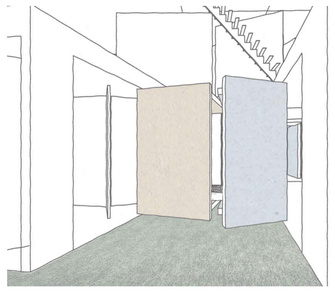


おじゃします。将棋でもやりませんかと壁を倒し部屋を接続し、新たな将棋空間の完成。

「くそぉ負けてしまった。」

通路をふさいで将棋をする。罪悪感あるけど、将棋好きの人がおじゃましにきてくれないかなあ。

通路を通る人のおじゃま



「くそぉ負けてしまった。」

外から悔しがる声が聞こえる。何をしているんだろう、

お一将棋かな

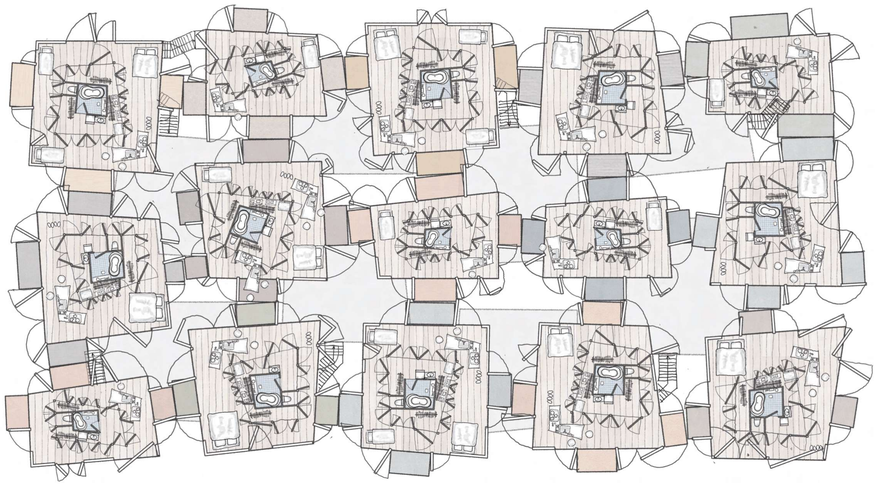
私もおじゃまして参戦してみようかしら。久しぶりに勝負をしたい気分だ。

08. 趣味があふれ出す

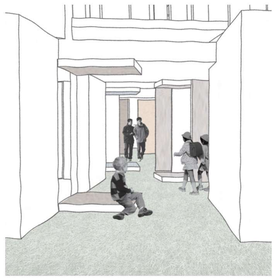
個人の趣味が外に溢れると、建物自体がこんなに彩りと活気があふれるものなんだ。私も趣味は一人で完結させてたけどみんなに自慢するのもいいのかも。

生活の中に趣味が滲れている。少しうるさいと思うこともあるけど私はこの生活が大好きだ。今日はギターを弾いている人がいる。この小さなライブを聴きながら料理をしよう。

こんなところに小さな図書館。この人が趣味で集めた本がこんなに。基本的にここの家は開放してるし、もっと家主のひとと本について語りたいな。



3階平面図　1:200



隣と隣がつながっていないときもある。

そんな時はテラスとして使われることもある。使い方にも個性が出てるのなんだかいい。私は何に使おうかな。

09. 金沢に色があふれ出す

この建築から少し離れてみると、初めて見える景色があった。

倒れた壁、開かれた壁。

建物から溢れ出した色が、静かな町並みに少しずつ滲んでいく。

どこかでは食卓を囲み、どこかでは趣味を楽しみ、

どこかでは何も話さず同じ時間を過ごしている。

それぞれが違う暮らしを送っているのに、

その景色は一つの大きな暮らしのようにも見えた。

建物全体が、住む人たちの日常をそのまま町へ映し出しているようだった。

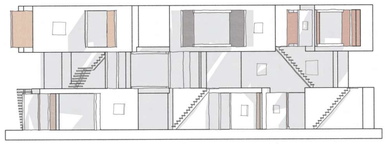
道を歩く人は、その景色を見て足を止める。

「何か楽しそうだね。」

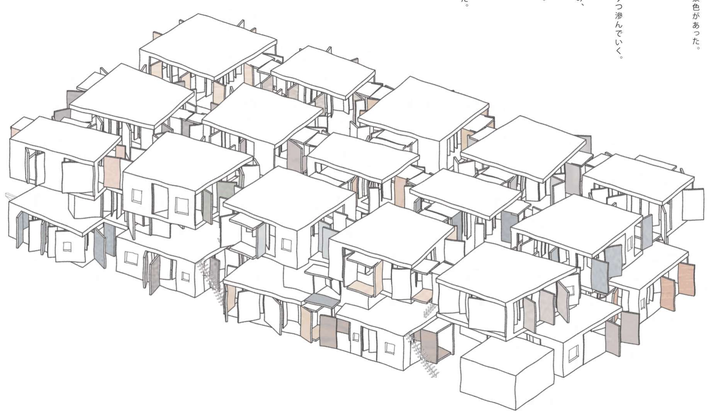
「あ、今日はあの部屋が開いている。」

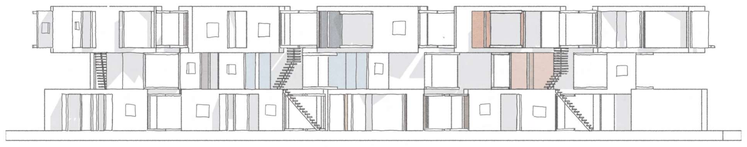
そんな何気ない会話が、この建築の周りで生まれていく。建物の中で育まれた小さな「おじゃします」は、開かれた壁とともに町へ滲み出し、この場所を通る人の日常にも、少しずつ彩りを与えていた。

あの色は、そこに暮らす人たちの「おじゃします」が積み重なって生まれた、人とのつながりの色だった。



西側立面図　1:250





南側立面図　1:250

住み始めて、おじゃします。」が途絶えた日なんてあるのかな。

いや、ない。

だっておじゃましないと外に出ることが困難だもの。

でもほんとにじゃまだと思ったことなんて、学校に遅刻しそうになって焦ってた時くらいだな。

誰かの趣味が少しだけ外へ溢れ、それをきっかけに笑い合う。

気づけば、私の日常は「じゃま」であふれていた。

それなのに、不思議と嫌じゃない。

むしろ、その「じゃま」があるから毎日が少し楽しい。

あの頃の私は知らなかった。

こんなにも「じゃま」であふれた暮らしが、こんなにも幸せだなんて。